



筑波大学キャンパスで

つくば、ホンモノ！
TSUKUBA, HONMONO!

筑波大学システム情報系社会工学域教授

Akiko Yoshise

吉瀬 草子さん (54)

横浜市生まれ。東京工業大学工学部卒業、同大学院理工学研究科で経営工学を専攻後、博士(工学)取得。現在は筑波大学システム情報系社会工学域教授として「数理最適化モデルのアルゴリズムと応用」を研究。

つくばで輝く
女性研究者

シンポジウムでの講演

的な選択など、社会生活に役立つシステムについて幅広く研究。また、2006年から実施している県内の高校との連携プロジェクト「社会に役立つ数理技術」では、高校生が考えたテーマを数理モデルで解決するなど数学への関心を深める活動も行っている。安全な通学路を作る街頭と信号の最適配

学生との交流から生まれる

「新しい視点」



家族そろって浅草へ

機械工学系に強い東京工業大学に進学。「社会

「研究と交流」
「数学を応用した社会システムの最適化」が研究の核。鉄道の運行管理や自動車のナビゲーションといった社会インフラに関係するものから、会社の勤務シフトや大学の履修科目の効率

置などの地域インフラや、高校生が好きなお菓子と必要な栄養素を調査し、満腹、健康、おいしい食生活という食の最適化も学生と共に研究。「高校生の斬新な発想が私たち研究者にとっては刺激的で驚かされることばかりです」と吉瀬さん。

《理系女子の歩み》

小学生の頃から算数が好きだったが、学問としての数学より人に役立つ「モノ作り」に憧れ、

に役立つ数学を研究するため大学院では経営工学を専攻した。「当時は女子更衣室がないなどいろいろと不便でしたが、研究室では分け隔てなく自由に研究できる恵まれた環境でした。大学時代に所属したサークルの先輩と結婚。愛娘は美術大学を卒業後、アニメーション業界で活躍中。「夫の趣味は自転車作り、娘は仕事三昧。家族が皆自分の好きなことに夢中ですが、家事では何かと夫の方が上手でまったく頭が上がりません」。

つくばの暮らし

横浜市からつくば市に移り住んで25年。筑波大学の自由な環境で研究活動を続けてきたが、最近は管理職としての業務が多くなり、研究に集中することが難しくなってきたことが悩み。吉瀬さん本人の趣味は週3回のジム通いと自宅での腹筋運動。「やっぱり健康が大事ですから」と笑顔。